

イノベーション部門

応募事例名

地元団体と連携して取り組んだ下水道資源を使ったホップ栽培

応募団体名) 北九州市上下水道局

応募事例の概要

地元団体(響灘ホップの会)と連携して、北九州市の基幹浄化センターである日明浄化センターにおいて、下水道資源(下水再生水・下水汚泥由来肥料)を活用したホップの栽培に取り組みました。

区分	役割
北九州市上下水道局	栽培場所の確保、栽培資材(鉢、用土、ネット等)の提供、水やり、地ビール販売促進協力
響灘ホップの会	ホップ苗、肥料(市販品)の手配、栽培支援、地ビール製造・販売、地ビール販売促進

役割分担

パターン	A	B	C	D
供給水	水道水	水道水	下水再生水	下水再生水
肥料	下水汚泥由来の肥料	市販肥料	下水汚泥由来の肥料	市販肥料
鉢数(鉢)	8鉢	8鉢	8鉢	8鉢
収穫量(比率※)	21	1	22	4

※栽培パターンB(水道水・市販肥料)の収穫量を1とした場合

ホップの栽培パターン

<ホップ栽培の概要>

- 期間：4月下旬～8月上旬
- 場所：日明浄化センター
- 実施者：上下水道局と響灘ホップの会
- 栽培方法：
 - 【供給水】水道水と再生水
 - 【肥料】市販肥料と下水汚泥から製造した肥料

収穫した「じゅんかん育ち」のホップを原料に、浄水場で育ったわさびを隠し味にした新感覚地ビールを製造し、下水道資源の有用性をPRしました。



「じゅんかん育ち」のホップ



ホップの実



新感覚地ビール



ホップの収穫体験



乾杯イベント

PRポイント

◆収穫体験を通じた取組のPR

毎年、小学生とその保護者を対象に開催している「親子ふれあい教室」において、ホップの収穫体験を実施し、普段、目に触れることが少ない下水道について、その役割や重要性を伝えるとともに、収穫体験を通して「じゅんかん育ち」の食材への理解を促しました。

◆安全性の確認

収穫したホップについては、重金属(カドミウム、ヒ素、鉛、水銀)の分析試験を実施して安全性を確認し、酒造メーカーに提供しました。

取組みに関するエピソード

今回、限られた条件下でのホップ栽培であったが、下水道資源の有用性が確認できるとともに、「じゅんかん育ち」の取組をPRする良い機会となりました。

但し、下水道資源の活用に関しては、重金属が含まれることへの懸念などネガティブな印象があることから、このような取組や広報活動を積み重ねて市民や農業者への理解促進を図ります。



上下水道局 下水道計画課
村松 俊之